

ベランダでも育てられる
みんなのコンテナ菜園

葉ネギは梅雨明けの夏にうまさを発揮します。葉ネギを早採りする小ネギは、収穫までの期間が短く、生育温度は4〜33度と広いため、一年を通し繰り返し収穫できます。長さ40cmの小型プランターでも26〜40株ほど栽培できます。一見すると茎が見当たりませんが、根が出ているすぐ上に皿状の茎があります。ここに成長点があるので、地際から5cmほどを残して刈り採れば、再び葉が伸び、何度も収穫できます。ぜひ挑戦してみてください。

葉ネギ(小ネギ)

場所を取らず何度も収穫できて
あると何かと便利な常備野菜



1. 種まき

小型プランター(長さ40cm・5L)に、元肥(IB化成18〜28g)を混ぜた土を入れ、8cm間隔(プランターのサイズに応じて15cm間隔まで調整)で深さ約1cmの溝を2列作る。溝へ重ならないよう種をまき(写真1)、土をかけて水をやる。



2. 間引き(1、2回目)

種まき後5日ほどで出芽してくる。発芽後間もなく混んだ所を、ピンセットを使って間引き(写真2)。本葉1枚で2回目の間引きをし、株間を1cm間隔にする(写真3)。



3. 間引き3回目と追肥

最後の間引きは、本葉3枚までに株間を2〜3cmにする(写真4)。間引き後に5〜8gの普通化成(NPK成分8-8-8)を株間に施し(写真5)、水をやっておく。土が減っているようならば土を足しておく。



4. 収穫

小ネギとしての収穫は、草丈30〜40cm、最短で種まき後60日から(写真6)。繰り返し収穫する場合は、地際から5cmほど残す。



写真・文:園芸研究家 淡野一郎/写真©ICHIRO AWANO

💡 長く収穫するにはこれ以後
14日置きに同量の化成肥料を施す。

4

5

6

おすすめレシピ

やわらかとんかつの
ヨーグルタルタル



材料[2人分]

- 豚ロース肉(とんかつ用) …… 2枚(250g)
牛乳 …… 30ml
塩 …… 小さじ1/4
こしょう …… 少々
卵 …… 1個
牛乳 …… 30ml
小麦粉 …… 大さじ6
パン粉 …… 2カップ
揚げ油 …… 適量
青ジソ …… 適量
キャベツ …… 適量
プレーンヨーグルト …… 150ml
パプリカ(みじん切り) …… 50g
タマネギ(みじん切り) …… 30g
オイスターソース …… 小さじ2
すりごま(白) …… 大さじ1

作り方

- ①豚肉は両面を包丁の背で細かく20〜30回ずつたたき、ひと回り大きくする。パットなどにAを合わせ、豚肉を20分間漬ける。
- ②ミルク衣を作る。ボウルに卵を割り入れてほぐし、牛乳、小麦粉を加えてよく混ぜる。
- ③豚肉に②を絡めたらパン粉をまぶし付け、軽く押さえる。
- ④フライパンに油を2cm深さまで入れて、中火で170〜180度に熱する。③を入れ、火を少し強めて5〜6分揚げ。途中で一度裏返す。
- ⑤器に青ジソを敷いて④を盛り、食べやすく切ったキャベツを添える。Bの材料を混ぜ合わせてヨーグルタルタルを作り、全体にかける。



日本酪農乳牛協会(現・一般社団法人「ミルク」)は2007年、牛乳に関する関心を高め、酪農・乳牛を多くの人に知ってもらおうと、6月を「牛乳月間」と定めています。ぜひ、日頃の生活に乳製品を取り入れて、畜産業を応援しましょう。



出典:ミルクウェブサイト「ミルクレシピ」

JAあつぎ
准組合員向け広報紙

発行 厚木市農業協同組合 厚木市水引2-9-2 ☎046(221)1666(代)

JAあつぎ

https://www.ja-atsugi.or.jp/

JAあつぎ 検索



▲JAあつぎ公式「ゆめみちゃんねる」

▲農産物直売所「夢木市」

▲JAあつぎ公式「ゆめみちゃんねる」

▲農産物直売所「夢木市」

組合
理念

夢ある未来へ

人とともに、街とともに、大地とともに…

(組合が存在する意義、理由、目標を表わしたものです)



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

持続可能な地域社会を目指して

学んで・実践して・発信して

協同組合の魅力を広げよう!



「私」ができないことも、
「私たち」ならできる。

仲間で力を合わせ、支え合い、一人ではできないこともみんなで実現していく。そして、自分たちの暮らしと地域を豊かにしていく仕組み。それが協同組合です。国連は、SDGsを進める力として協同組合に期待を寄せており、2025年を「国際協同組合年」としました。JAグループは、農業と地域に根ざした協同組合。地域の農業、豊かな暮らし、そして子どもたちの未来のために、これからも地域で助け合いの輪を広げ、社会課題の解決に取り組んでいきます。

プレゼントコーナー

クイズ

JA あつぎ女性部が制作した踊りの名前は?

ヒントは紙面内にあります!

答え: ●●●●●●●●音頭 ※●の部分をお答えください

厚木市でブランド化を目指している農産物「ペピーノ」の新商品!

ペピーノダミ3袋とペピーノサイダー2本を

抽選で10名様にプレゼント!

当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。



応募方法

ハガキまたは FAX、ホームページにて①〜⑦の項目を記載し、ご応募ください。

- ハガキ / 右記の通り
- FAX / 046-223-8814
- ホームページ /

https://www.ja-atsugi.or.jp/form/greenpage/

締め切り 令和7年7月31日(木)

二次元コードを読み取ると
ホームページの応募フォーム
が表示されます。



243-0004

切手

厚木市水引
2丁目9番2号

JAあつぎ総合企画部
グリーンページ課

※①〜⑦すべてをご記入ください
※ご記入いただいた個人情報は、抽選、賞品発送に
利用するほか、個人を特定できない統計情報として
利用し、マーケティング等に利用させていただきます

- ①クイズの答え
- ②郵便番号・住所
- ③氏名
- ④年齢
- ⑤電話番号
- ⑥当広報紙で取り上げ
て欲しい情報
- ⑦当広報紙へのご感想
やJAに対するご意見・ご要望

JAあつぎ
代表理事組合長
大矢 和人

5月に新たな
組合長に
就任しました

皆さんは「国際年」をご存じですか?国連は一年間を通じて、平和と安全、開発、人権・人道の問題など、一つの特定のテーマを設定し、国際社会の関心や取り組みを促すために「国際年」を制定しています。国連はその一環として、2025年を2012年に続く2回目の「国際協同組合年」に決めました。

今回は「国際協同組合年」について触れながら、協同組合の魅力やJAあつぎの取り組みについてご紹介していきます。ぜひ一緒に協同の輪を広げていきましょう。



詳細はこちら! >>>

編集
後記

今回のグリーンページでは、「国際協同組合年」について触れながら、JAが目指す姿や役割について紹介しました。協同組合は、地域と一緒に歩みを進めていることを、改めて知っていただけたらうれしいです。JAの活動については、紹介したもの以外にも、准組合員の皆さまが参加できる取り組みがたくさんあります。今後も、各種広報媒体で周知を行っていきますので、ぜひ参加していただき、一緒に協同の輪を広げていきましょう。紙面を読んで感じたこと、今後知りたい情報などがございましたら、プレゼント応募を通じてぜひお寄せください。(吉川)

なぜ国際協同組合年が設定されたの？

国連は2023年11月の国連総会で、2025年を「国際協同組合年」にすることを宣言しました。設定された理由は、協同組合をより盛んにし、SDGs(持続可能な開発目標)をさらに現実のものとするため、国連は協同組合を評価し、期待を寄せているからです。

日本国内の協同組合においても事業・活動をさらに発展させ、協同組合への認知度を高めていく機会と捉え、さまざまな関係機関と連携を図りながら取り組みを進めています。

よって、協同組合の事業を利用する人、活動に参加する人、働く人の皆で「協同」の魅力を伝えていくことが大切となります。

国際協同組合年の活動目標

1. 協同組合に対する理解を促進し、認知度を高めます

協同組合の役割や価値を広く認知させ、協同組合運動を促進します。

2. 協同組合の事業・活動・組織の充実を通じてSDGs達成に貢献します

事業や活動を通じてSDGs達成に貢献し、協同組合の理解者・共感者、組合員を増やします。

3. 地域課題解決に向け、協同組合間やさまざまな組織との連携を進めます

複雑化・深刻化する地域課題の解決に向けて、協同組合同士や各組織で連携を図ります。

4. 国際機関や海外の協同組合とのつながりを強めます

国際機関や協同組合同士と連携し、学びを深めながら日本の協同組合の取り組みを発信します。

✓ 協同組合の歴史を学ぼう！

協同組合は人々が助け合い、皆の幸せの実現に向けて、よりよい暮らしや社会を目指す自主・自立の運動体です。協同組合は、さまざまな課題達成に取り組んできた歴史を持ちます。

江戸時代末期には、二宮尊徳が経済的に苦しむ藩士のための「五常講」という信用組合のような制度を、大原幽学が「先祖株組合」という土地を出資の代わりにしてその収益で農民などが助け合って生活していく仕組みを作りました。

大正時代に入り、協同組合運動の父と呼ばれた賀川豊彦は、貧しい人々の救済のため労働運動、農民運動、普通選挙運動など社会改革運動を推進しました。賀川豊彦が設立した神戸購買組合は現在まで続く協同組合の祖となっています。

✓ JAの活動に参加しよう！

JAあつぎの各種活動は、皆さんも参加できるものがたくさんあります。地区ごとの取り組みはもちろん、地域や年齢を越えて交流を図れる活動も多くあります。7月には、各地区で「納涼盆踊り大会」が予定されています。各組織やJAによる出店などもされ、毎年多くの人でにぎわいます。ぜひ参加し、一つの輪の中で楽しく踊りながら交流を深めましょう。



【納涼盆踊り大会】

- 7月16日(水): 睦合地区・玉川地区・相川地区
- 7月23日(水): 依知地区・荻野地区・小鮎地区・南毛利地区・清川地区

※開催場所は各支所となります

※開催時間や催し内容などについては、支所よりご確認ください



耕そう、大地と地域の未来。



皆さんはJAあつぎ女性部が制作した「ゆめみちゃん音頭」を知っていますか？歌詞には、JAや地域農業をイメージした内容が盛り込まれ、踊りやすい振り付けになっています。ぜひ会場で一緒に踊りましょう！

踊り方の動画はこちら



✓ 日本の協同組合に加入している人はどのくらい？

日本の協同組合には、延べ1億835万人の組合員が加入しており、協同組合が生み出す付加価値額は4兆4千億円にもなります(注1)。また、加入率は個人ベースで46.5%、世帯ベースで51.4%と推計されています(注2)。

(注1)「2022年事業年度版協同組合統計表」(2025年3月:日本協同組合連携機構)
複数組合に加入の場合は組合員数を重複計上

(注2)「協同組合に関する全国意識調査2022」(2023年3月:日本協同組合連携機構)

私たちの周りには
農業協同組合(JA)をはじめ、生活協同組合、
漁業協同組合、森林組合、労働者協同組合、
信用組合など、多くの協同組合があります！



✓ JAが目指す姿や役割とは？

協同組合とは組合員が力を合わせ、願いを実現する組織です。主役は組合員であり、事業を利用する組合員自らが事業や組織の運営方針を決定します。併せて、協同組合は地域社会あってこそ存続ができる、地域社会に開かれた組織。よって持続可能な発展に力を尽くす必要があります。

JAとして目指すのは、農業振興、地域・暮らしの発展です。組合員やJA職員も一体となり、地域農業や生活のサポートをすることで、目標達成を目指しています。



地域に根ざしたJAあつぎの取り組みを知ろう！

各地区では、組織・地域・JAが連携し、農業振興や地域・暮らしの発展、組合理念の実現に向けたさまざまな活動を展開しています。
ここでは、支店長より各地区の活動を一部ご紹介します。

依知地区 親子ふれあい収穫祭



[左] ふじの たかのり
依知支所長 藤野 孝儀
[右] すずき たかふみ
依知南支店長 鈴木 隆文

地域農業に触れ、地産地消への理解を深めてもらおうと、地区内にある果樹園と連携し、梨やブドウの収穫体験を実施しています。品種や栽培方法を学びながら、親子での共同作業を楽しんでもらっています。

荻野地区 ヒマワリ栽培



一面ビタミンカラーで
人々の心を明るくしています！
[左] ほどうま としあき
荻野支所長 程島 俊明

地域の景観美化に向け、青壮年部がヒマワリの栽培に取り組んでいます。昨年は6アールの畑に約6,000本のヒマワリが咲くなど、農地を活用した地域コミュニティの場として、地域住民に笑顔を届けています。

睦合地区 親子ふれあい農園



おおいにしけんいち
睦合支所長 大西 健一
[左] しまづ なおゆき
北支店長 嶋津 直幸

食と農のつながりを学んでもらおうと、サツマイモの定植から収穫までを体験する取り組みを実施しています。各組織も協力し、サツマイモ料理も振る舞うなど、収穫の喜びを一緒に分かち合っています。

小鮎地区 フードバンク寄贈



[左] やまぐち こうた
小鮎支所長 山口 康太
[右] すきやま みつひろ
宮の里支店長 杉山 光宏

食品ロス削減や生活困窮者への支援につなげるため、女性部を中心にフードバンクへの寄贈を行っています。SDGs達成に向けた地域貢献活動の一環として、組織の力を結集し、継続的に取り組みを進めています。

玉川地区 敬老の日お花プレゼント



心温かい手作りの品で
長寿を祝っています！
[左] いのうえ いさお
玉川支所長 井上 勲

敬老の日に合わせ、地域を支えてきた方々に感謝の気持ちを伝えようと、女性部が手作りのフラワーアレンジメントを贈っています。活動は20年以上続き、地域に根ざした活動として高齢者の方から喜ばれています。

南毛利地区 いきいきクラブ



うちだ じゅんいち
南毛利支所長 内田 淳一
[左] しまづ としひろ
[右] 愛甲支店長 嶋津 俊宏

高齢者福祉活動の一環として、助け合い活動すずしろと協力し、ミニデイサービスを開いています。毎回、趣向を凝らした内容で参加者を笑顔にするなど、健康で心豊かな生活をサポートしています。

相川地区 水稻栽培体験教室



真実に作業する園児の
表情がとても印象的です！
[左] つかだ かつし
相川支所長 塚田 勝敏

地域密着型の食農教育活動として、青壮年部による水稻栽培体験教室を開いています。発砲スチロール製の容器を水田に見立て、植え付けと収穫の作業を一緒に行うなど、子どもたちの健やかな成長をサポートしています。

清川・駅前地区 茶摘み体験



[左] ながしまおさむ
清川支所長 永島 修
[右] さとう もとえ
駅前支店長 佐藤 泉江

清川村の基幹作物であるお茶に理解を深めてもらおうと、茶摘み体験を開いています。駅前支店も合同で開催し、日ごろ体験できない手摘みでの収穫や、おいしいお茶の入れ方などを体験してもらっています。

協同活動の実践イメージ

